

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

**評価結果報告書****地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4670800384
法人名	有限会社 精祥
事業所名	グループホームやまぶき
訪問調査日	平成20年11月8日
評価確定日	平成20年12月19日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

**項目番号について**

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年11月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670800384
法人名	有限会社 精祥
事業所名	グループホームやまぶき
所在地	鹿児島県出水市上鯖洲48番1 (電話)0996-63-4176

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年11月8日	評価確定日	平成20年12月19日

【情報提供票より】(平成20年10月7日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年 10月 20日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 6人, 非常勤2人, 常勤換算 7.2人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り 3階建ての 階 ~ 2階部分
------	-------------------------

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(10月7日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 73.5歳	最低	78歳	最高	95歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	脇本病院、楠元内科医院、おかだクリニック、村岡歯科医院
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは3階建ての介護付有料老人ホームの2階にある。近くに出水駅や商店街があり、利便性の良い生活しやすい環境である。1階の庭園には家族の協力をもって季節の野菜が植えられ、食材として利用者に提供されている。協力病院との24時間緊急対応の医療連携体制が確立され、職員の看護師を中心に終末期の対応も出来ている。管理者、職員は家庭的な日常生活を共にし、触れ合う時間を大切に自らも楽しみ、喜びをもって介護に当たっている。利用者の表情も明るく落ち着いた様子が見られ、利用者本位の生活が提供されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	地域密着型サービスとしての役割を含めた理念づくりを指摘され、今回「声かけ、助け合い、皆で作る地域の輪」を追加している。市町村との連携も運営推進会議のメンバー構成員の中に行政職員を入れるなど交流する機会を設け、徐々に深めていく努力ができています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	運営者、職員は評価の意義を理解している。自己評価は職員の意見を聞きながら管理者の方でまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)	定期的に行政職員、地域代表者が参加し、開催されている。内容は外部評価や利用者の現状報告を行い、参加者からの意見や助言をもらい、サービスの向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)	家族の意見、苦情は面会時や行事に参加の際、常に傾聴している。また、家族会や運営推進会議の場でも家族からの意見や要望を聴いて職員間で話し合い、適切に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	近隣の商店街での買い物、散策等で、なじみの関係を深めつつある。ホームの夏祭りに地域住民の参加を呼びかけたり、地元中学校職場体験を受け入れるなど交流ができています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの理念に新しく「声かけ助け合い皆で作る地域の輪」を、掲げ、事業所独自の地域密着型サービス型理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい一部の理念のみ玄関に大きく掲げてある。部署会議で理念の共有を図っている。日々の確認はむずかしい状態である。		ホームの理念及び取り組みを、職員をはじめ家族や地域住民にも知らせる取り組みが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、行事など地域活動の情報を集め、参加するなど努力している。近隣の商店街での買い物や地元の中学校の職場体験学習も受け入れている。事業所の夏祭りには地域住民の参加もある。また、水害の時は施設が地域の避難場所となり、協力関係ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が職員の意見をまとめ自己評価に取り組んでいる。評価で見出された課題については改善計画を立てて質の確保、向上に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回運営推進会議を開催し、事業所からの報告とともに参加者メンバーから質問や意見をもらい、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に対してパンフレットやホーム便りを届けたり、また、事業所の実情やケアサービスの取り組みを機会を設け報告している。運営推進会議にも参加もっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを年3回発行している。面会時電話で日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。金銭管理は出納帳で管理しており、毎月、領収書を送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族などの来訪時や家族会などで意思の疎通を図り、意見や要望を出しやすい雰囲気づくりを心がけている。出された意見は部署会議で話し合い、運営に反映している。運営推進会議や家族会でも意見を公表している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や職員のなじみの関係の重要性を認識している。やむをえない異動の際には十分な説明をして利用者へのダメージ予防に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・施設内研修に職員の代表が参加し、報告書をもとに部署会議(月1回)で、学習を重ねている。また半年に1回、事例発表にも取り組んでいる。レベルアップ研修に多くの時間をかけている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県下のグループホーム連絡協議会に加入しているが交流する機会は少ない。地域同業者との意見交換会を行政に提案している。		他のグループホームと連携して自主的交流会が開催されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に至るまでの期間中、本人、家族に見学してもらい、職員や利用者との交流を図っている。十分な時間を設け、生活歴を把握し、コミュニケーション(傾聴、受容、声かけ)を密にして、1日も早くなじめるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの得意分野を見出し、活動につなげている。掃除、裁縫、料理、習字、貼り絵など生きがいや達成の喜びを共感している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活リズム、「できること、わかること」を把握し、その人らしい過ごし方に配慮、工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとに主治医、職員の意見を活かした介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化や入退院の際など部署会議(月1回)において話し合い、検討し、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院送迎や個々の要望に応じた外出など多機能性を活かし、必要な支援を柔軟に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が納得したかかりつけ医となっている。定期的な往診日も設けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期は家族、主治医、管理者、看護師で状況の変化が見られるたびに話し合い、取り組んでいる。		重度化や終末期の対応指針を定め、支援方針の共有化、家族の同意書をもらうなどの対策が望まれる。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇委員会を中心に学習会を開催している。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、起床、就寝時間、入浴、レクリエーションなど利用者の生活リズムに留意しながら本人の希望や状況に応じて支援している。利用者のほとんどが昼間はホールで過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に収穫した野菜を食材に利用し、利用者と一緒に調理、後片付けをしている。「食事が一番の楽しみである。美味しい。」などの声もきかれ食べ残しも少ない。時間のかかる利用者に対しても見守りの中で自力で食べられるよう支援されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	木曜日以外を入浴日としている。入浴拒否に対しては1日かけてタイミングを見ながら支援している。自力で入浴できない利用者はサービスの入浴場にて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力に応じて趣味や特技を発揮できるように支援している。(台所仕事、洗濯物干し・たたみ・取り入れ、掃除、ぬり絵、貼り絵、気晴らしの戸外散策など)		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物日(月、水、金)には、利用者の状態を見ながら買い物や戸外散歩を楽しんでいる。希望に応じて墓参りや利用者の自宅近くまでのドライブを楽しむこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解している。死角になっている居室もあるのでフロアーに職員が必ずいるようにして利用者全員の見守りを重点的に行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防委員会を中心にマニュアル作成を行い、月、1回事業所内での利用者を含めた避難訓練を実施、熟知できている。年、2回事業所全体で地域消防団、自治会長の協力をもらって災害訓練をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記入し、一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるよう支援している。栄養バランスは栄養士のアドバイスも受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした広い共用の空間が確保され、台所やリビングの周りにはソファや畳のスペースもある。テーブルには季節の花が飾られ、壁にはちぎり絵や貼り絵があって利用者がくつろげる明るい共用空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室も広いスペースがとってあり、テレビ、ラジオ、時計、ソファ、写真など好みのものももちこまれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。利用者の状態に応じてベットをはずし、布団にするなど工夫されている。		